

授業科目名 (英訳)		特別研究Ⅱ(含海外インターンシップ) Special Research Seminar II				担当者所属 職名・氏名		総合生存学館 関係教員			
配当学年	2 回生	単位数	2	開講年度 開講期	H27 通年	曜時限		授業形態	演習	使用言語	日本語
〔授業の概要・目的〕											
<p>特別研究Ⅱでは「思」の段階の完成をめざし、多様な研究技法を習熟させ、かつ最新の研究論文を熟読させるとともに、研究指導教員、研究指導委託教員をはじめとする複数指導教員とのディベートなどによる特別研究課題に関する指導と助言を通じて、研究の評価や批判の方法を学ばせる。また、コミュニケーション力、研究・開発の洞察力、計画力、推進力、さらに、文章力、プレゼンテーション能力、討論力、課題発見能力など博士論文研究を遂行するための十分な基礎力を会得させ、特別研究課題についてのテクニカルレポート（学術論文草稿）作成・提出へと指導・助言する。なお、グローバル人材としての国際性確保のために、夏季休業期間中にインターンシップとして海外機関で約1ヶ月のサービスラーニング型現地実践教育を実施する。年度末には専門科目群に関する知識と多様な専門分野を俯瞰する力が身についたかについて第1次博士論文研究基礎力審査を課す。</p>											
〔到達目標〕											
特別研究を精力的に実施し、学位論文に向けた研究成果を A4 用紙 40 枚程度にまとめる。											
〔授業計画と内容〕											
<p>特別研究課題についての研究を継続して行いつつ、3年次以降の特殊研究への継続性、さらには5年次終了時に提出する学位論文の内容を想定しつつ、学年末には論文の草稿を作成し、提出する。研究指導教員、研究指導委託教員だけでなく、メンター教員／教育指導教員とも密に連絡をとり、4年次のフィールドワーク、5年次のPBRの予定を具体化する。併せて、特別研究Ⅱでは、日本のJICA研修施設等におけるオリエンテーションののち、バングラデシュなどの海外諸施設等において、夏季休業期間中にサービスラーニング型現地実践研修を1ヶ月にわたって実施し（授業時間数には参入しない）、終了後にレポートを提出させるとともに発表会を実施する。なお、TOEFL-IBT 80点以上を第1次博士研究基礎力審査の条件とする。</p>											
〔履修要件〕											
特になし											
〔成績評価の方法・観点及び達成度〕											
<p>海外インターンシップについては、研修への参加および研修前後のレポートと発表により評価する。一方、研究については、研究成果の学内並びに学外に向けた積極的な発表を促し、口頭発表、論文発表をもとに評価する。さらに特別研究の進捗状況について学年末に中間審査会である第1次博士研究基礎力審査(論文調査委員会による論文審査会ならびに論文発表会)を実施し評価する。</p>											
〔教科書〕											
〔参考書等〕											
〔授業外学習（予習・復習）等〕											
バングラデシュでの研修に向けて、予備調査を行うとともにベンガル語について学習する。											
〔その他（オフィスアワー等）〕											